

## 企業景況・動向調査

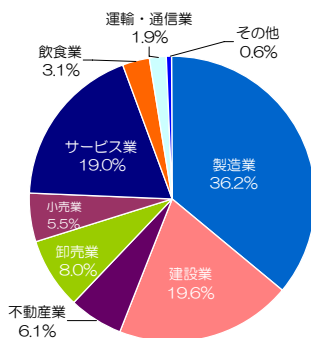
### ●はじめに

「せいしんビジネスクラブ」総会開催時に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケート調査を実施した。概要は以下の通り。

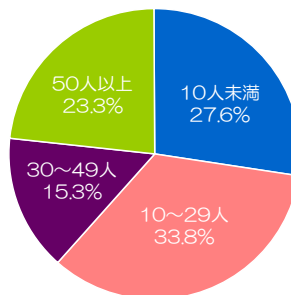
### ●調査概要

調査時期：平成28年7月19日（火） 「せいしんビジネスクラブ」総会開催時  
 調査対象：静清信用金庫取引先企業で構成する異業種交流会「せいしんビジネスクラブ」会員  
 調査対象者数：210名 有効回答者数：163名 有効回答率：77.6%

#### ◆業種(n=163)



#### ◆従業員規模(n=163)



要旨

～今期売上高は約半数の企業で前期並みと予測～

～多くの企業にて利益確保の見通し～

～製造業・非製造業共に「人材確保」・「人材育成」が最大の課題～

#### ◆ 売上高および経常利益の実績と見通しについて

- ・前期の売上高実績は、「増加」と回答した企業に比べ、「横ばい」または「減少」と回答した企業が平成27年7月調査（以下：昨年調査）より増加している。
- ・今期売上高見通しは、製造業の6割弱、非製造業の5割弱が「横ばい」と回答し、業種を問わず横ばい状態を予測する企業が多い。
- ・今期の利益見通しは、製造業では9割強、非製造業では8割強が「黒字」を見込んでいる。

#### ◆ 雇用状況・採用予定について

- ・現在の雇用状況について、製造業は「不足」が45.7%と、昨年調査より16.1ポイント拡大し、人員の不足感が増している。
- ・非製造業は、「不足」と回答した企業が昨年調査同様に4割半ばとなり、人員の不足感は解消されていない。
- ・来春（平成29年4月）以降の採用予定は、製造業、非製造業ともに「採用しない」が6割半ばに達し、新規採用に対しては、慎重な姿勢を見せている。

#### ◆ 設備投資について

- ・現在の設備状況について、製造業は「不足」と回答した企業が45.8%にのぼり、設備の不足感が高まっている。非製造業は「適正」と回答した企業が72.1%となり、設備の過不足感が和らいでいる。
- ・今後の設備投資の予定について、3年以内に設備投資を行う企業が製造業は66.1%、非製造業は47.6%であり、中期的に投資を検討している様子が見られた。

#### ◆ 今後の懸念材料について

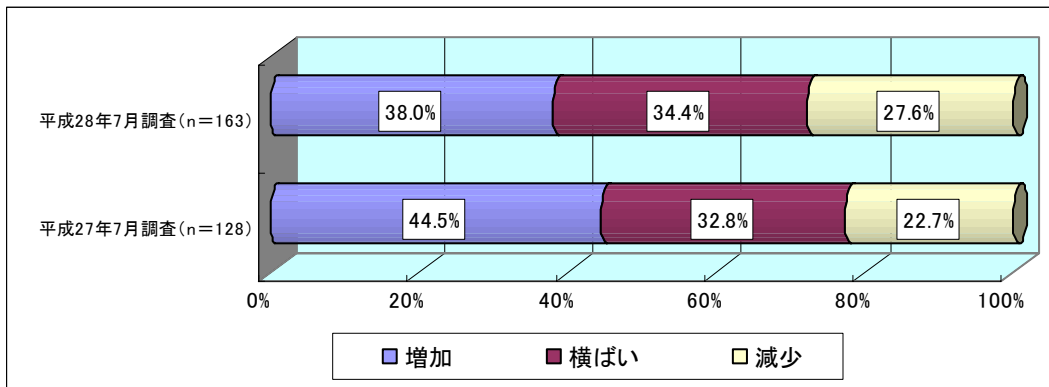
- ・製造業、非製造業ともに「人材育成」「人材確保」が上位回答となり、多くの企業が「人材」に関する対応を重視する姿勢を示した。

# 1. 売上高の実績と見通しについて

## 1-1. 前期の売上高実績

(全体)

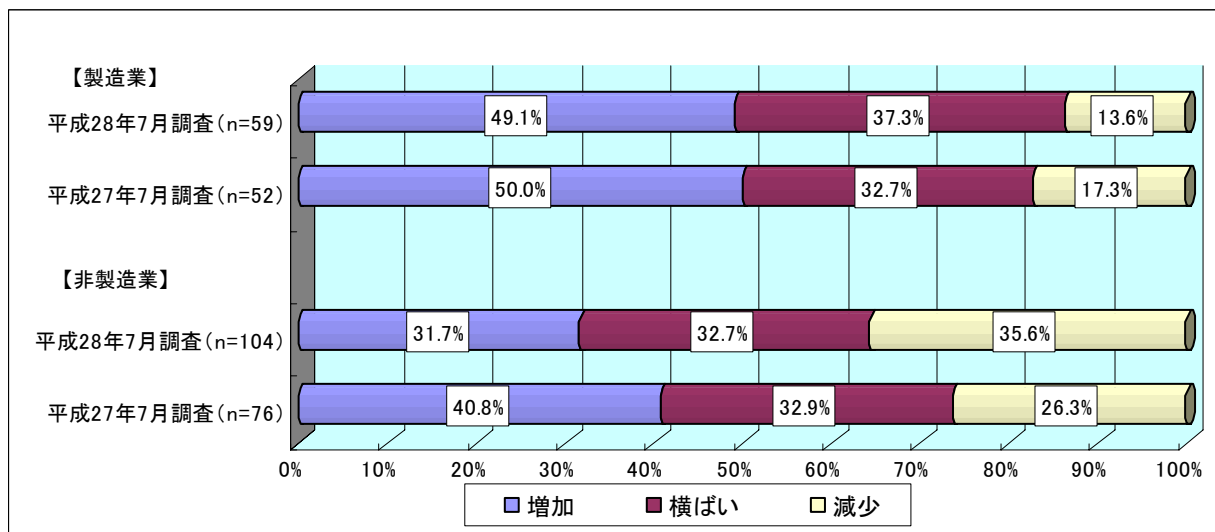
SA



前期の売上高実績は、「増加」が38.0%となり、平成27年7月調査（以下、昨年調査）から6.5ポイント縮小した。一方、「横ばい」が34.4%と昨年調査から1.6ポイント拡大し、「減少」が27.6%と昨年調査から4.9ポイント拡大するなど、業況はやや悪化傾向にある状況が窺えた。

(製造業/非製造業)

SA

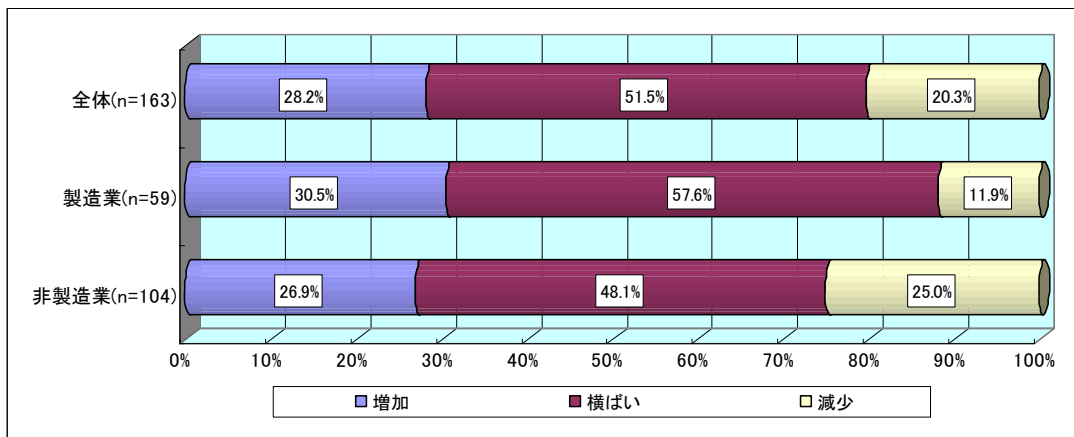


業種別に見ると、製造業では「増加」が49.1%で最多となり、次いで「横ばい」(37.3%)、「減少」(13.6%)となった。「増加」は約半数と、昨年と同水準を維持し、「減少」は昨年調査から3.7ポイント縮小するなど、業況は改善傾向にあることが窺える。

一方、非製造業では、「減少」が35.6%と最多で、次いで「横ばい」(32.7%)、「増加」(31.7%)となった。昨年調査に比べ「増加」が9.1ポイント縮小し、「減少」が9.3ポイント拡大しており、非製造業での業況悪化が目立った。

## 1-2. 今期の売上高見通しについて

SA



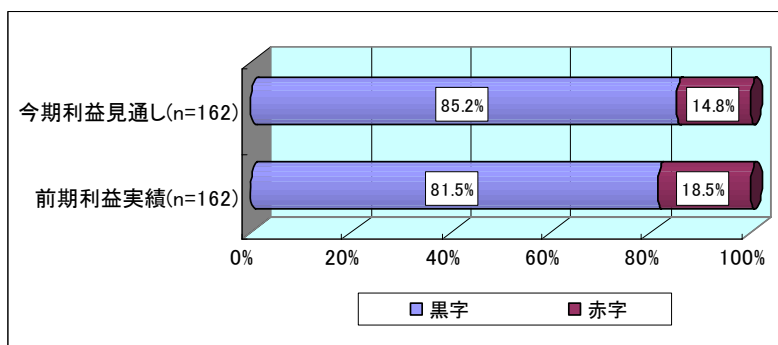
今期の売上高見通しは、「横ばい」が 51.5%で最多となり、次いで「増加」(28.2%)、「減少」(20.3%)となった。

業種別に見ると、製造業では、「横ばい」が 57.6%で最多となり、1-1「前期の売上高実績」の調査値 37.3%から 20.3 ポイント拡大した。また、非製造業でも、「横ばい」が 48.1%と最多で、1-1「前期の売上高実績」の調査値 32.7%から 15.4 ポイント拡大しており、業種を問わず横ばい状態にあることが窺える。

## 2. 前期の経常利益の実績と今期見通しについて

(全体)

SA

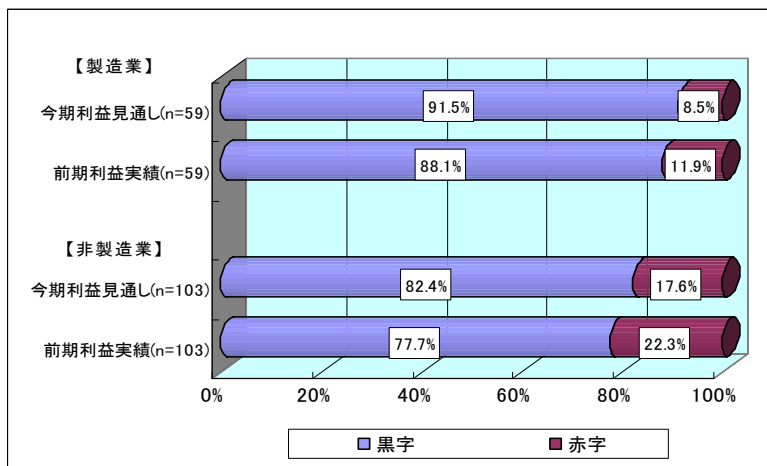


前期の経常利益の実績は、「黒字」が 81.5%と大半を占めた。

今期見通しでは、「黒字」が 85.2%と前期から 3.7 ポイント拡大しており、多くが利益を確保できる見通しを示した。

(製造業/非製造業)

SA

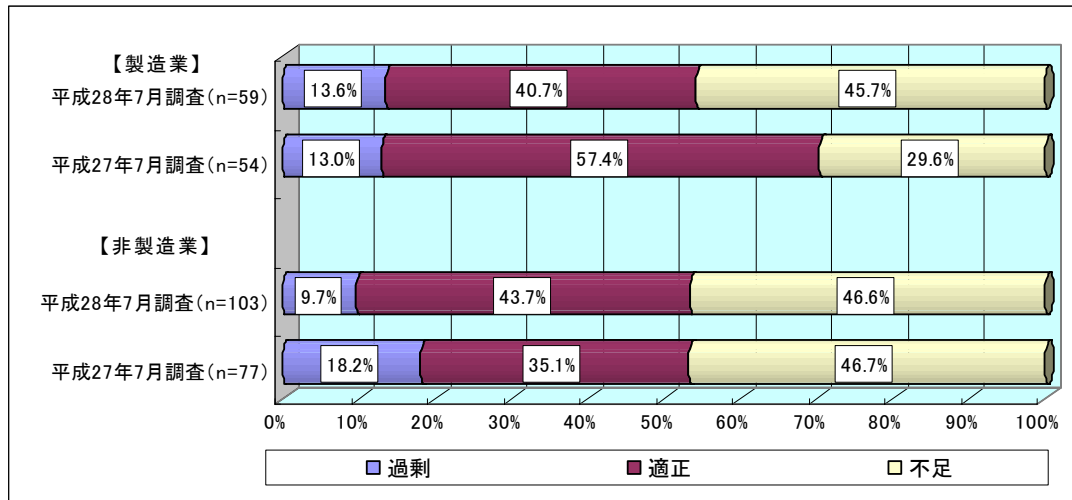


業種別に見ると、今期見通しを「黒字」とする企業は、製造業で 91.5%、非製造業で 82.4%と、いずれも前期実績を上回っており、引続き利益を確保できる見通しを示した。

### 3. 雇用状況について

#### 3-1. 現在の雇用状況について

SA

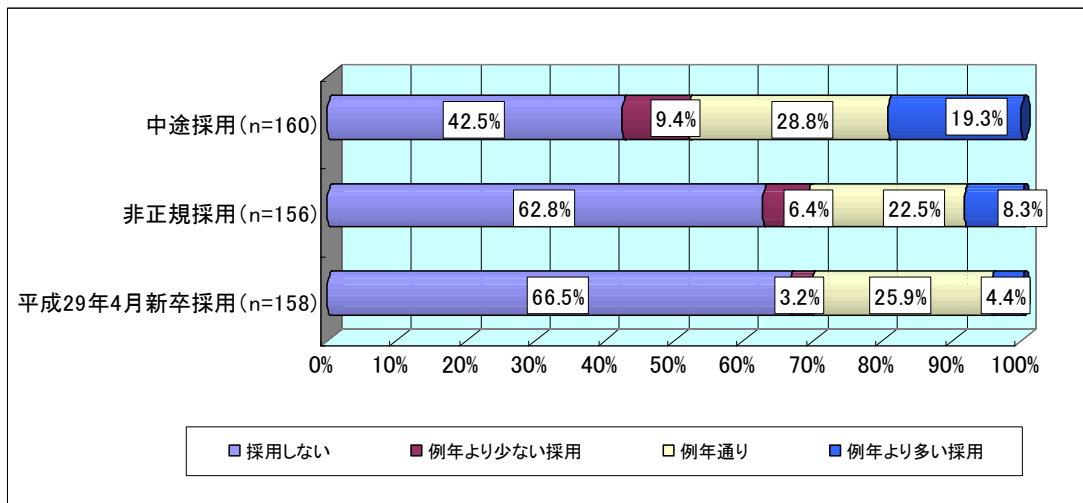


現在の雇用状況について尋ねたところ、製造業では、「不足」が 45.7%で最多となり、昨年調査より 16.1 ポイント拡大するなど、人員の不足感が増している。

非製造業では、「不足」が 46.6%で最多となり、次いで「適正」(43.7%)、「過剰」(9.7%) となった。「過剰」が昨年調査より 8.5 ポイント縮小し、「適正」が前回調査より 8.6 ポイント拡大しており、一部で人員の過剰感は和らいでいる。また、「不足」が昨年調査同様に 4 割半ばとなり、人員の不足感は解消されていない様子が窺える。

#### 3-2. 今年度（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）の採用活動について

SA

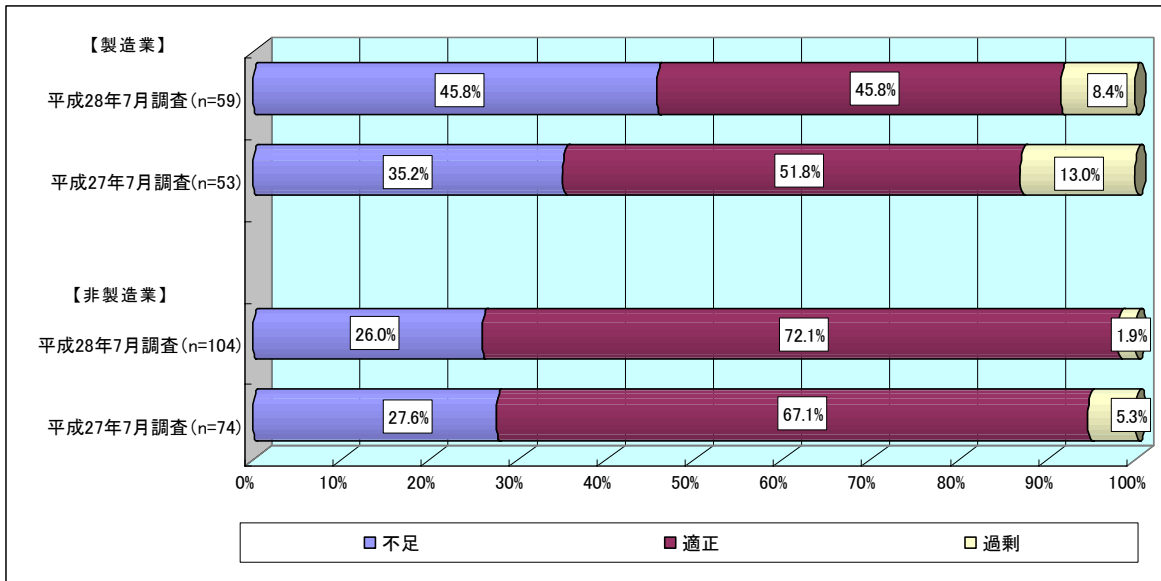


今年度（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）の採用活動については、「採用しない」が、中途採用で 42.5%、非正規採用で 62.8%、平成 29 年 4 月新卒採用で 66.5%と、いずれも最多となった。3-1 「現在の雇用状況について」では、製造業、非製造業ともに 4 割半ばの企業で人員の不足感が見られたが、採用に対しては、慎重な姿勢を見せている。

## 4. 設備投資について

### 4-1. 現在の設備状況について

SA

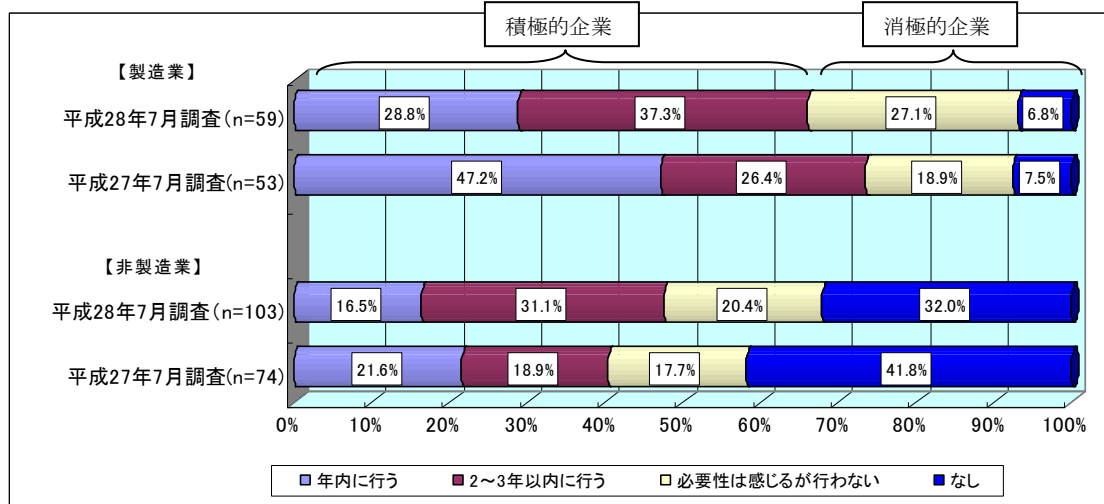


現在の設備状況は、製造業では、「適正」と「不足」が共に45.8%となった。「不足」は、昨年調査から10.6ポイント拡大しており、設備の『不足感』が高まっている様子が窺えた。

一方、非製造業では、「適正」が72.1%となり、昨年調査から5.0ポイント拡大した。また、「不足」(26.0%)は昨年調査より1.6ポイント縮小し、「過剰」(1.9%)も3.4ポイント縮小するなど、設備の『過不足感』はやや和らいでいるようだ。

### 4-2. 今後の設備投資の予定について

SA

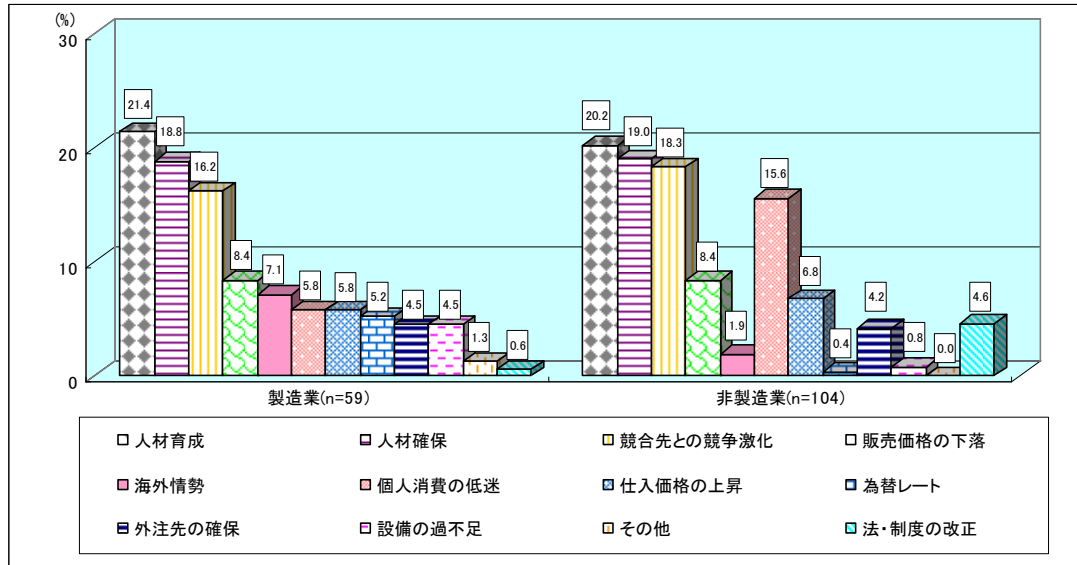


今後の設備投資の予定について、製造業では「年内に行う」または「2~3年以内に行う」とする『積極的企業』が66.1%となり、昨年調査(73.6%)から7.5ポイント縮小した。

一方、非製造業では、『積極的企業』が47.6%と昨年調査(40.5%)から7.1ポイント拡大し、特に「2~3年以内に行う」が昨年調査から12.2ポイント拡大するなど、中期的投資を検討している様子が見られた。

### 5. 今後の懸念材料について

MA



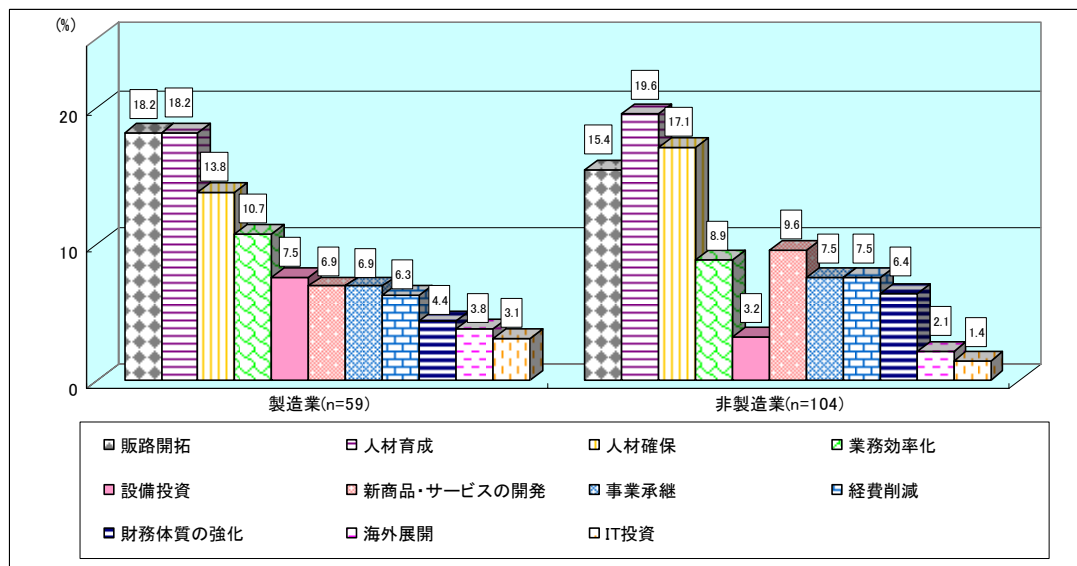
今後の懸念材料について、業種別に見ると、製造業では、「人材育成」が21.4%と最多で、次いで「人材確保」(18.8%)、「競合先との競争激化」(16.2%)となった。

非製造業でも、「人材育成」が20.2%と最多となり、次いで「人材確保」(19.0%)、「競合先との競争激化」(18.3%)の順となった。

製造業、非製造業ともに、「人材」に関して懸念している様子が見える。

### 6. 今後、特に重視する経営課題

MA



今後、特に重視する経営課題について、製造業では、「販路開拓」と「人材育成」が共に18.2%と最多で、次いで「人材確保」(13.8%)となった。非製造業では、「人材育成」が19.6%で最多となり、次いで「人材確保」(17.1%)、「販路開拓」(15.4%)となった。

製造業、非製造業ともに、「人材」に関する対応を重視する姿勢を示した。

(静清信用金庫 経営相談部 平成28年8月作成)